

# 「ハエの脳」でヘリを自動制御

## 情報処理の仕組み コンピューター化

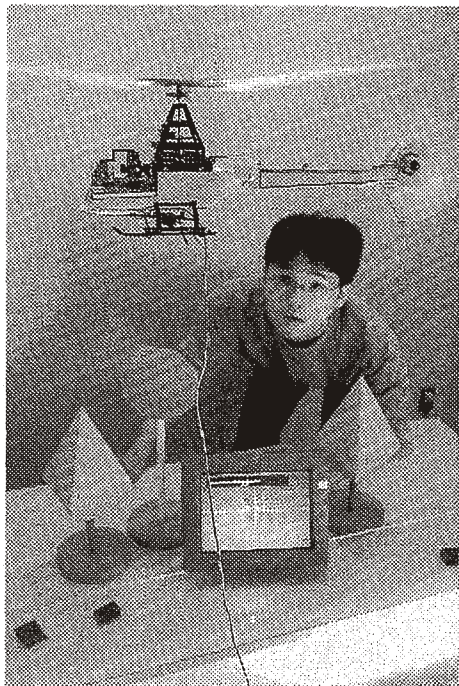
昆虫のハエの脳をモデルにしたコンピュータで、無線操縦の模型ヘリコプターを自動制御することに理化学研究所（埼玉真和光市）の脳創成デバイス研究チームが成功した。研究を発展させれば、人間の脳の情報処理をまねたコンピュータ開発の足がかりになるという。

### \* 理研チームが成功 \*

飛んでいるハエは、自分の姿勢を前後左右、斜め方向など十六の要素に分けて把握する。コンピュータはこのハエの視覚神経の仕組みをヒントにした。小型高性能カメラで、ヘリに取り付けられた赤と緑の目印をこらえ、ヘリの位置や速度、傾きを〇・〇三秒ごとに計算し、機体の姿勢や

モーターの出力を調整、空中でのバランスを保つ。

基本的な制御はあらかじめ入力してあるが、微妙な制御は、コンピュータが学習しながらマスター。操縦の初心者だと十時間練習しても数秒間がやっと、という空中停止も、無難にこなしてみせた。二十一日の同研究所（☎048・462・1111）の一般公開（午前十時―午後四時）で、披露する。



昆虫の脳をモデルにしたコンピュータで自動制御飛行する模型ヘリ